

睡眠病

しづ、食し、或は酒などばかりを吞居て、漸々に何も食せざるやうに成るものなり、怪しむに足らず、又一生涯食はよくしながら、糞せざる人もあり、其外奇病怪症、天下の内には種々の事ありて、余も見及び聞及べり、

〔中右記〕長承二年九月二日、此曉、權中納言從三位中宮權大夫藤忠宗薨、年廿七年來睡眠病也、睡眠病人二人已夭亡、故按察中納言顯隆卿與此中納言也、尤可恐病也、

〔異疾草紙〕なま良家子なるおとこありけり、すこしもまづまれば、な。が。ら。ね。ぶ。る。人。の。い。か。なる。こと。を。せ。む。も。ま。る。べ。く。も。な。し。ま。ら。う。人。の。と。き。ま。こ。と。に。み。ぐ。る。し。か。り。け。り。こ。れ。も。病。な。る。べ。し。

笑疾

〔閑田次筆〕藤公時平笑疾あり、一時朝廷にして此疾發り、いかにともすべからず、其日の政事は

菅公にゆだねて退きたまふとなん、不和にて權を争はる、敵手にあひて如此は、さこそ止こと得ざるなるべし、五雜俎に、陸子龍有笑疾、古今一人のみといへるも同じ、かなたにてもめづらし

きなるべし、たゞし世に笑中風、哭中風といへるものありて、これ實におかしきにあらず、悲しきにあらず、内より催してせんかたなきなり、藤公も子龍も此甚しきもの歟、資規校合の因云、金匱

菌、笑不止とあり、是を治するに、人糞汁、或は土漿、或は大豆濃煮汁を飲ましむ、或人の話に、ゆゑな

〔大鏡〕左大臣時平此左大臣も、おかしきぞえねんせさせたまはざりける、わらひた、せ給ひぬれば、すこぶる事もみだれけるが、北野によをまつりむたせ給ふあひだ、ひだうなる事おほせ

られければ、さすがにやむとなくて、せちにし給ふ事をばいかはおぼして、このおとゞのし給ふことなれば、ふびんなりとなげき給ひけるを、なにがしの史がごとにも侍らすをのれがかま

へにて、かの御事をとゞめ侍らんと申ければ、いとあるまじき事、いかにしてかはなむとの給はさせけるを、たゞ御覽せよとて、ざにつきてことさびしくさだめの、しり給ふに、この史ふむば